

食品中の放射性物質検査結果

平成23年3月に、東日本大震災による福島第一原子力発電所事故がおき、食品中の放射性物質検査が急務となりました。そこで、横浜市衛生研究所においてもガンマ線核種分析装置を導入し、平成23年7月から検査を行っています。

平成27年度に当所で行った食品の検査結果は表1、表2のとおりで、基準値*を超えた検体はありませんでした。

* 放射性セシウム(Cs)の基準値(Cs-134とCs-137の合計)

乳児用食品:50Bq/kg、飲料水:10Bq/kg、牛乳:50Bq/kg、一般食品:100Bq/kg

表1 検体の種類

検体の種類	説明	検査検体数	Cs検出検体数
市内産農産物	横浜市内産の農産物	35	4
市内産水産物	横浜市内漁港水揚げの魚介類	75	0
市内産畜産物	横浜市内産の原乳	4	0
市内量販店流通食品	横浜市内で流通している食品	70	1
小学校給食	主食のパン・米類及び牛乳など	399	0
合計		583	5

表2 検査結果

検体の種類	検査検体名 []内は検体数	Cs検出検体 []内はCs検出 検体数	結果(Bq/kg)		
			Cs-134	Cs-137	Cs合計
市内産農産物	うめ[1]、えだまめ[1]、柿[1]、かぶ[1]、カリフラワー[1]、キウイ[1]、キャベツ[1]、きゅうり[1]、玄米[1]、こまつな[3]、さつまいも[1]、しいたけ(生)[2]、じゃがいも[1]、だいこん[2]、たけのこ[1]、たまねぎ[1]、とうもろこし[1]、トマト[1]、なす[1]、日本なし[1]、にんじん[2]、ねぎ[1]、はくさい[1]、ぶどう[1]、ブルーベリー[1]、ブロッコリー[1]、ほうれんそう[1]、みかん[1]、水菜[1]、レタス[1]	えだまめ[1]	—	1.00	1.0
	しいたけ(生)[2]	1.07	5.27	6.3	
		1.70	7.08	8.8	
	たけのこ[1]	6.47	25.9	32	
市内産水産物	アカカマス[3]、アカシタビラメ[1]、イシガレイ[2]、イボダイ[2]、ウミタナゴ[2]、カサゴ[1]、カナガシラ[3]、コウイカ[1]、コショウダイ[2]、ゴマサバ[1]、サルエビ[1]、シリヤケイカ[6]、シログチ[9]、スズキ[9]、タチウオ[6]、チダイ[2]、ヒラメ[11]、ホウボウ[2]、マアジ[1]、マコガレイ[2]、マゴチ[1]、マサバ[2]、マダイ[1]、マルアジ[3]、ムシガレイ[1]	—	—	—	—
市内産畜産物	原乳[4]	—	—	—	—
市内量販店流通食品	加工乳[1]、片栗粉[1]、牛乳[14]、粉ミルク[9]、米(玄米)[2]、米(精米)[6]、鮭[1]、清酒[3]、清涼飲料水(乳児用食品)[5]、低脂肪牛乳[2]、豆乳[1]、とろろ[1]、乳飲料[6]、発酵乳[1]、ブルーベリージャム[1]、ベビーフード[10]、味噌[1]、ミネラルウォーター[2]、野菜・果実ミックスジュース[1]、緑茶[1]、りんごジュース[1]	牛乳[1]	—	0.782	0.78
小学校給食	あずき水煮[1]、牛乳[173]、米[78]、胚芽米[31]、発酵乳[5]、パン[74]、麦[36]、もち米[1]	—	—	—	—

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】